

「那覇・嘉手納基地研修を終えて」



(法人賛助会員)

三沢市防衛協会 理事

竹花 勉

三沢基地と交互に行われている恒例の JAAGA 那覇・嘉手納基地研修に参加した。

1 日目午後、那覇基地で基地と南西航空混成団の概要及び防衛任務の

状況等について、米軍嘉手納基地で基地の概要や日本の防衛に対する活動等について、それぞれ説明を受けた。日本の防衛のみならず災害時等においても、米軍、自衛隊が被災者の救出・救護・復興等の活動を速やかにかつ効率よく進めることが出来るよう、日頃から訓練に取り組んでいることが心強く思えた。

嘉手納基地でコーニッシュ司令官より受けた、「第 18 航空団は本土に 1 度も帰った事が無いアメリカ唯一の部隊である。障害者のスポーツ大会支援、地域との文化交流への参加などの社会活動を積極的に行っている。」との説明が印象深い。また、私の質問に対し、「東日本大震災における『トモダチ作戦』を経て、米軍基地と自衛隊基地はより強固な協力関係にあるが、地域の理解者である各防衛協会も相互に情報交換し、地域の声を基地に伝えたり地域住民への支援につなげられるよう、橋渡しの役目をする事も必要ではないか。また、米軍基地、自衛隊基地、そして日米双方と関係を有する防衛協会の三者が、『協力体制の必要性』について認識を共有することが大事だ。」と助言をしてくれたことに感銘を受けると共に、このような協力関係が進展すれば、基地周辺に住む地域住民の基地に対する見方が変わるのではないかと興味深い。

2 日目午前、嘉手納基地及び那覇基地において米救難ヘリ (HH-60)、米空中給油機 (KC-135)、日米の戦闘機 (F-15) を見学するとともに、那覇基地で実施中の日米施設部隊の訓練を研修した。第 18 施設群司令ロビンソン大佐は、東日本大震災当時米軍三沢基地に所属し「トモダチ作戦」に参加しており、彼が米軍側指揮官として訓練を推進してくれていることを誇らしく感じた。

今回の研修は社会福祉に携わる者としても、大変興味深い意義のある研修でした。